

実演家よ！ 学校へ行こう！

子どもたちの表現力やコミュニケーション力を伸ばすために
今、アーティストの力が求められています

俳優や舞踊家、演出家などが学校で授業をする例は、各地で増えつつあります。今年度から文部科学省と文化庁が「コミュニケーション教育」の推進を始めました。しかし、この動きを全国の学校に広めるためには、子どもたちへの指導ができる実演家の絶対数がまだまだ不足しています。また、各校での取組みをさらに豊かにしていくためには、既に指導している人同士の経験交流も必要です。

芸団協では2000年から、表現教育指導者養成講座を開催してきました。10年の蓄積を活かして、今年度は夏季集中研修をはじめ、実践や経験交流の機会を提供していきます。

すでに子ども対象の事業を多数経験している人も、これから本格的に始めたいという初心者もOK。基礎に立ち戻ったり、他の人の実践見学をしたりしながら、ブラッシュアップすることを目指しましょう。子どもたちのために、そして、自分じしんのために。

【場所】 芸能花伝舎および都内の学校
【期間】 2010年8月18日～2011年3月まで

【主催】 社団法人日本芸能実演家団体協議会
【協力】 日本児童・青少年演劇劇団協同組合
社団法人日本劇団協議会 社団法人日本児童演劇協会
子どもと舞台芸術出合いのフォーラム実行委員会
日本演出者協会 一般社団法人日本劇作家協会
日本俳優連合 日本演劇教育連盟
日本演劇学会「演劇と教育」研究会

【支援】 平成22年度文化庁芸術団体人材育成支援事業



夏季集中研修の概要

俳優、舞踊家、演出家、音楽家、演芸家など、実演家を対象とした研修です。

8月

コース・スケジュール【会場はすべて芸能花伝舎です】

18日(水)	オリエンテーション 10:30~12:00	実践 A 小学生対象のワークショップ 実践例と分析 講師:大潤 弘幸 13:00~15:50	講座① 学校という制度と文化政策 講師:藤井 佳世 16:10~17:30
19日(木)	講座② WSとファシリテーション について 講師:熊谷 保宏 10:30~12:30	実践 B 中学生対象の応用ドラマの 授業例と分析 講師:オーハシ ヨースケ 13:30~16:30	
20日(金)	講座③ WSのプランづくりについて 講師:西田 豊子 10:30~12:30	実践 C ワークショップを 構築してみる 講師:西田 豊子 13:30~16:30	グループ討議 16:45~17:30
23日(月)	実習準備 グループワーク*		
24日(火)	実習準備 グループワーク*		★関連セミナー 18:30~20:30

●すでにワークショップの経験がある方は、実践編A、実践編Bおよび講座③+実践編Cを、それぞれ単独受講することができます。

●学校で授業実践経験の少ない方、初心者の方で実践を希望される方は、18日から20日の3日間の全プログラムに参加し、23日または24日のいずれかに参加していただくことが必要です。

*グループワークの所要時間は参加人数によって異なりますが、各人のスケジュールによって調整することが可能です。

●学校での実践は、参加者と実践受入校の希望、スケジュールを調整したうえで、秋から冬にかけて実施します。学校実践に臨む方は、過去に本コースを修了した実演家等による授業の見学や研究会に参加する機会があります。グループワークで課題の整理や授業プランづくりを行い、模擬授業を経て授業実践をし、実践後に授業内容を振り返り、専門講師にアドバイスをもらいます。

2011年3月までには、すべての課程を終えますが、実践準備や振り返りのスケジュールは、個別に調整しながら決定していきます。

【コース受講料】

学校実習希望者(8月の夏季集中講座と2011年3月までの活動を含む)……………25,000円

*実習を希望しない、8月18日から20日の3日間の集中講座のみ希望の方も同額です。

【実践編単独受講】

18日—実践編 A ……………5,000円

20日—講座③+実践編 C ……8,000円

19日—実践編 B ……………5,000円

プログラムの詳細

講座① 講師:藤井 佳世 (鎌倉女子大学教育学部講師) 8月18日(水) 16:10~17:30	●学校という制度と文化政策 学校の授業に関わるには、ある程度は学校という制度についての知識が必要です。また、教師や保護者に対して活動の意義や目的を説明するためにも、学校で重視されることへの理解が不可欠です。実演家が子どもたちに関わることが、制度の中でどのように位置づけられているのか、昨今の政策上の動きについても理解しましょう。
講座② 講師:熊谷 保宏 (日本大学芸術学部演劇学科教授) 8月19日(木) 10:30~12:30	●ワークショップとファシリテーションについて 参加者の「表現」や「創造性」を引き出すことを目指したワークショップには、いろいろな方法が考えられますが、参加者の受け止め方を考えた場合、ワークショップの構造を知っていることが大切です。本講座では、そもそもワークショップとはという原点から、どう構成できるのかということ概観し、実演家に関わる場合には何を大切にしたらよいか、ともに考えていきます。
講座③ 講師:西田 豊子 (劇作家・演出家・アートインAsibina理事長) 8月20日(金) 10:30~12:30	●ワークショップのプランづくりについて 実演家が表現指導に関わるとき、まず自分の専門性を明らかにして、何をしようか、すべきでないかを自覚することが大切です。専門性といっても、プロの実演家育成の訓練手法を、そのまま子どもたちに適用しては、苦手意識を増幅させるだけに陥る危険性が多々あります。子どもたちが楽しく自然に表現できるようにするために、ワークショップ案づくりで留意すべきことを確認します。
実践編 A 講師:大潤 弘幸 (劇団風の子) 8月18日(水) 13:00~15:50	●小学生対象のワークショップ実践例と分析 幼児から低学年を対象とした表現ワークショップの経験豊富な講師とともに、WSの実際を体験しながら、ひとつひとつの活動の意味や目的、留意点などを検証していきます。
実践編 B 講師:オーハシヨースケ (TAICHI-KIKAK代表) 8月19日(木) 13:30~16:30	●中学生対象の応用ドラマの授業例と分析 イギリスでアブライド・ドラマを学び、日英両方の子どもの活動経験のある講師とともにアブライド・ドラマの授業例を体験し、実際に日本の中学生と活動するときの留意点などを学んでいきます。
実践編 C 講師:西田 豊子 (劇作家・演出家・アートインAsibina理事長) 8月20日(金) 13:30~16:30	●ワークショップを構築してみる 子どもたちの発達段階による違いを考えながら、楽しく自然に表現できる「しかけ」を考え、各人で実際にワークショップ計画をたててみます。(午前に行われる講座③と連続しています)

関連セミナー (参加費別途1,000円)

演劇と教育セミナー 高等学校における演劇の授業の実際と課題

8月24日(火) 18:30~20:30

全国的に演劇の授業を取り入れている高等学校は相当数あり、外部講師として指導にあたっている実演家も増えているようです。しかし、各校でどのような取組みが行われているのかといった情報交換の機会は限られています。今回は、芸術高校として10年の経験を蓄積してきた埼玉の芸術総合高校と、福島県立いわき総合高校の報告を聞き、指導者同士が経験交流を進めるためのセミナーです。

報告者:山下 昇治(埼玉県立芸術総合高等学校) / 石井 路子(福島県立いわき総合高等学校)
ゲスト:林 成彦(不等辺演劇倶楽部主宰) / 石本 興司(俳優・演出家)